

八坂やさか法觀寺ほくわんじ

八坂の踊は文月なかばより、此さとの遊君はでなるゆかたに彦惣頭巾野郎ぼうしなどかづき、目さむるばかりにけはひして、塔のまへに輪をなしおどる也。ゆききの人見物せんと、木戸口よりはいりてかれをこれをと興じ、つひに一夜妻の媒となしぬ。寛保延享の頃まで侍りしが、今は絶てなし。